



静岡聖光学院中学校・高等学校

たしかに学力を育み世界とつながる
ニュージールランド長期留学も始動



工藤 誠一 理事長・校長
聖光学院中学校高等学校（横浜市）
静岡聖光学院中学校・高等学校（静岡市）



これからの不確実な時代においても、生徒たちに必要な力を育み、社会へ送り出すことが私たちの使命です。ITスキルやグローバルな感覚、英語力の重要性は変わりませんが、AIが台頭する時代だからこそ、より一層「人間らしさ」が求められるようになるでしょう。論理や情報処理をAIが担う時代には、「マイ・ストーリー」を持ち、共感力や他者との関係を調整する力、さらには社会の中でリーダーシップを発揮する力が必要です。

確かな学力を育み世界とつながる

こうした力を育むための土台

- ① 東京から新幹線で約1時間。富士山や駿河湾を望む小高い丘の上に建つ静岡聖光学院
- ② STEAMの拠点ビギリオンガレッジで行われるプログラミング授業。生徒同士が肩を寄せ合い議論したり、一人で黙々と作業をしたり、取り組み方はそれぞれだ③ 全国大会、通称「花園」へ過去8回出場の実力を誇る高校ラグビー部



キャリア形成も担う 中高一貫の探究活動

本校では学びに天井をつくらず、多様な進路やキャリアの選択肢を広げていきたいと考えています。探究活動やSTEAM教育、Aレベルプログラムといった先進的な取り組みも積極的に導入・刷新しており、生徒の人間の成長や進学実績からも着



田中 潤 教頭
静岡聖光学院中学校・高等学校（静岡市）

実な成果が見えています。なかでも探究活動は、学びの動機となる「なぜ学ぶのか」を見つけるキャリア形成の機会として位置付けています。中1から自分の興味・関心と向き合い「学び方」を学び、中2・3の「ゼミナール」では実践を通して課題発見と解決の経験を積み上げます。中学の活動は高校の個人研究へと引き継がれ、各自が領域性や専門性を深めていきます。2023年度の静岡大に続き、2024年度は順天堂大・上智大と高大連携協定を結び、高度なサポートを得ながらの研究も可能になっています。研究内容は論

PICK-UP



Aレベルプログラムで 海外名門大を選択肢に

ケンブリッジ大学国際教育機構(CAIE)の認定を受けた英国のオンラインインターナショナルスクールと静岡聖光学院が日本で初めて提携した。英国学校教育の経験を積んだ講師によるオンライン・双方向の講義は、主に学校の授業時間帯に受講可能で日本にいながら英国の義務教育と同等の学習を積むことができる。他の海外大学進学方法に比べて低コスト・時間短縮という特長もある。高校2年間のプログラム終了後に資格認定試験に合格すれば、世界中で通用するAレベル(一般教育終了上級レベル)資格保有者として国内だけでなく海外名門大学を直接受験が可能。中学生からAレベル取得までを段階的に学べるコースも用意している。

Aレベル、長期留学 広がる進路の選択肢

2020年に全国に先駆けて導入したAレベルプログラムは、比較的低コスト、短期間で海外大学への直接進学の資格が得られることや学校側のサポート体制が整っているという点から、年々認知度が高まっている

のを感じます。さらに英語の学習効果を高めるために今年度から始まるのが、ニュージールランドへの長期留学です。中3の3学期から高1の夏に実施し、単位互換制度もありますので、英語漬けになって力をつけて帰国すると、そのままAレベルプログラムへと接続することも可能です。また、MOUによる留学のため、費用は約300万円と一般的な海外留学に比べて非常に抑えられているところも特色の一つです。

本校の教育の根本には、ミッションスクールとして「他者のために自らを貢献させる」という精神があります。工藤校長もよく生徒に話していますが、中高6年間は、神様から贈られた「書簡『自分自身』」を開く時期、自分の使命や存在意義を見つけ

る大切な時間だと捉えています。この期間に、自分は何者か、どんな使命を持っているのかを見つけ、その上で、見つけた自分をいかに他者のために役立てていけるかが重要です。単に知識を学ぶだけでなく、内面を深め、社会とどう関わっていくかを模索する6年間にしてほしいと願っています。



NZ長期留学。MOUを締結したセイクリッドハートカレッジ

として、確かな学力の習得は不可欠です。本校では前期・後期の二期制を採用していますが、これまで年4回だった定期試験を、今年度から年5回に増やしました。これは、生徒が学びを継続的かつ丁寧に振り返ることが学力向上に欠かせないと考えているからです。また、姉妹校である横浜の聖光学院と連携した受験対策講座も強化し、難関大学への指導経験豊富な横浜の教員が静岡に赴き、英語・数学・理科などの指導にあたっています。

国際交流の面でも、本校は欧米からアジア・太平洋地域まで幅広く連携しており、昨年はブルネイで開催された国際サミットに参加するなど、グローバルな交流の裾野が年々広がっています。



インターナショナルスクールブルネイで開催された国際サミットには本校の中高生12名が参加

ます。静岡県内だけでなく、首都圏や他県からの生徒に加え、インドやタイといった海外からの留学生も受け入れており、2024年度にはインド出身の生徒が静岡大学へ進学しました。寮という環境があるからこそ実現できる多様な教育は、まさに本校の強みであり、時代の要請に応えるものだと考えています。

また、ラグビーを通じた交流をきっかけに、ニュージールランドのセイクリッドハートカレッジと国際交流協定(MOU)を締結し、今年度から長期留学プログラムがスタートします。さらに、2027年度を目標に、オールイングリッシュのカリキュラムを導入したインターナショナルコースの開設に向けた準備を進めています。

